



# 魅力だより



No.3

R8.1月

高校教育課学校教育生徒指導班

3学期が始まり約1ヶ月程経ちましたが、学校の様子はいかがですか。  
今回は、始良・伊佐地区研究協力校として「魅力ある学校づくり」に取り組んでいる霧島市立溝辺小学校のこれまでの取組を紹介いたします。ぜひ、今後の参考にしていただけるとありがたいです。

## 霧島市立溝辺小学校の取組（始良・伊佐地区研究協力校）

### 【研究主題】

誰もが楽しく通える「魅力ある学校づくり」を目指して

～ 魅力ある授業づくりを中心とした「居場所づくり」と児童の主体的な活動を通した「絆づくり」～

魅力  
ある  
学校



- ① 全ての子供が安心して学ぶことができ、授業の中で「分かる・できた」と実感し、自己肯定感や自己有用感、充実感を得られる学校（居場所づくり）
- ② 全ての子供が、主体的に活動に取り組み、互いに認め合い、自己理解や相互理解を深め、学校生活を楽しみ、つながりを深めていける学校（絆づくり）

### 研究仮説1（居場所づくり）

生徒指導実践上の4つの視点を踏まえた授業づくりに取り組むことで、子供が安心して意欲的に学ぶことができ、自己肯定感や自己有用感、充実感を得られる授業になるのではないかな。

#### ① 自己存在感の感受を促進する授業づくり

（意図的にタブレット端末を活用）



1年 学活

（意図的に指名でロールプレイ）



4年 学活

#### ② 共感的な人間関係を育成する授業づくり

（遊び・ミニゲームを取り入れた授業）



4年 学活

（グループで話し合う）



6年 学活

#### ③ 自己決定の場を提供する授業づくり

（方法の選択）



2年 算数



3年 算数

#### ④ 安全・安心な「居場所づくり」に配慮した授業づくり

（仲間とともに考えを深める）



4年 学活

（担任とともに考えを深める）



（サポートC 算数）

### 研究仮説2（絆づくり）

子供主体の活動を工夫し、子供が互いに認め合う場を計画的に取り入れることで、自己理解や相互理解が深まり、楽しみにして、行きたくなる学校になるのではないかな。

#### ① 児童会活動における主体的な活動

（児童総会での話し合い）






#### ② 委員会活動・学級活動における主体的な活動

（縦割り班遊び）



（異学年交流）



その他の取組	
<p>自己肯定感を向上させる活動</p> <p>(子供を褒めようプロジェクト)</p> <p>感動したで置</p> <p>あなたは 昨日の放課後 先生が イスの片付けをしているときに 「手伝いましょうか」と 声をかけてくれました 清辺小学校に来て 初めて 「手伝いましょうか」と 言われたので 感動しました ありがとう 開島市立清辺小学校 校長 林 賢 介</p> <p>・子供の善い行いを表彰し、賞状を玄関前に掲示</p> 	<p>「校長先生からの挑戦状」と保健に関するクイズ</p> <p>(校長先生からの挑戦状)</p>  <p>(身体測定器具のクイズ)</p> 

成果と課題 ○・・・成果 ●・・・課題
<p>【居場所づくり(魅力ある授業づくり)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 導入で子供の生活に密着した実物や写真を用いることにより、興味をもたせることができた。</li> <li>○ 導入でミニゲーム(体を動かすこと)を取り入れることにより、発言しやすい明るい雰囲気ができ、スムーズに授業に入ることができた。</li> <li>○ 解決方法や発表方法を自分で選択することで、自分の得意な内容や方法から学びを深めたり、進んで活動したりするようになった。</li> <li>● 解決方法を選択し、自力解決できるようにはなったが、複数の解法で解くまでに至らなかった。今後、複数の解法にチャレンジするように声を掛けるとともに、見届けを確実に行う必要がある。</li> <li>● 協働的な学びを実現するにあたり、発達段階を踏まえた話し合い(聞き合い)のスキルをさらに充実させる必要がある。</li> <li>● 「わがとも」での振り返りは、分かったことやできるようになったことなど学んだ内容のことに留まり、分かるようになった過程や友達の考えのよさなど、学び方や友達のよさについての深い振り返りができなかった。</li> </ul>
<p>【絆づくり(子供主体の活動)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和6年度は、代表委員会・児童総会の一連の活動で「全校遊び」が決定し、計画・実施・振り返りを児童が主体となって進めることができた。</li> <li>○ 令和7年度は「活気のあるあいさつ日本一の学校をめざすには」に取り組むこととなり、「季節ごとのイベント」や「ハッピーボックス」など、子供たちがワクワクするような取組とお互いのよさを認め合う取組を進めることができた。</li> <li>● 子供と先生が共に活動する時間を確保する必要がある。</li> <li>● カリキュラムマネジメントの視点を踏まえ、児童会活動や学級活動を学校全体で組織的・計画的に位置付けて、子供主体の活動をより効果的に実践していく必要がある。</li> </ul>

各学校では、取組を進める中で、不明なことや疑問に思うことが出てくることと思います。ちょっとしたことでも、どうぞお気軽にお尋ねください。(市町村教育委員会、各学校からでも大丈夫です。)

【連絡先】 高校教育課学校教育生徒指導班 (田中・福元)

TEL 099-286-5532

Email seitosidou@pref.kagoshima.lg.jp

